

専門診療について（専門外来：アレルギー、リウマチ、血液、腎臓、心臓、神経、内分泌・代謝、未熟児の8領域の疾患に対応）

①アレルギー疾患（担当：住本園長【専門医・指導医】、安西医長【専門医】、肥田医長、中道医師【専門医】、原田医師【専門医】）

（ア）気管支喘息

年間約 200 例の新患と約 500 例の長期管理を、ガイドラインに則って行っています。乳児喘息の診断・鑑別や呼吸機能検査、呼気NO検査、モストグラフ、環境指導、患者指導を積極的に行っています。小学生以上は、自己管理ができるように、日誌、JPAC、ピークフローモニタリング等を活用し、発作時は当院救急外来を受診し、包括的な治療を受けていただき、また、患者さんに合わせたオーダー・メイド治療を施行しています。

（イ）アトピー性皮膚炎

乳幼児の食物、環境因子のアレルギー診断、除去食、スキンケア、軟膏治療（プロアクティブ療法）などの指導をガイドラインに則り施行しており、重症の場合は、治療・教育目的の入院も可能です。

（ウ）食物アレルギー

アナフィラキシーの原因やアトピー性皮膚炎の悪化要因を調べるため、診断、除去食、指導、経口負荷試験を行なっています。平成25年8月からは、日帰り入院の経口負荷試験も開始（8人/週）し、専属医師と看護師の十分な観察のもとに、除去されていた食べ物（卵黄、卵白、牛乳、うどん）を少量ずつ食べてもらい、アレルギー反応の有無を判定します。判定結果に基づき、除去解除、除去継続、緩徐経口免疫療法の3群に分け、外来でのアフターケアを行っています。不必要な除去食を解除し、なるべく食べられるように努めています。

（エ）アナフィラキシー

主に救急外来での対応となります。アナフィラキシーの原因を特定し、除去指導します。必要な患者さんにはエピペンの処方や指導を行なっています。食物が原因の場合は、上記の（ウ）の対応を行なっています。

（オ）チーム医療

上記アレルギー疾患に対して、医師のみならず、看護師、薬剤師、栄養士（小児アレルギーエドゥケーター）などが連携・協同して治療にあたっています。具体的には、看護師による入浴・スキンケア・軟膏指導やPEF/喘息日誌の付け方指導、薬剤師による吸入指導、栄養士による栄養指導などです。

（カ）アレルギーセンター

平成30年6月1日に、当院が「大阪府アレルギー疾患医療拠点病院」に選定されたことを受けて、院内に「アレルギーセンター」を設置しました。アレルギー疾患をお持ちの患者さんを、科を越えて診療するセンターです。小児科としては、呼吸器内科、皮膚科、耳鼻咽喉科や眼科などと協力して、より重症の患者さんの診療にもあたるつもりです。

②リウマチ・膠原病・自己炎症性疾患・免疫不全（担当：肥田医長、藤野部長、住本園長）

若年性特発性関節炎（JIA）、SLE、皮膚筋炎をはじめとする小児膠原病、周期性発熱などの自己炎症性疾患、潰瘍性大腸炎などの診療を行っており、必要な方には、生物学的製剤（アクテムラなど）の投与も行っています。また、原発性免疫不全症・自己炎症性疾患などの免疫異常症の診断・治療を京都大学などと協力して施行しています。

③血液・腫瘍疾患（担当：藤野部長〔専門医・指導医〕、大部医長）

（ア）腫瘍疾患

大阪府小児がん連携施設連絡会参加施設の1つとして、小児外科をはじめとした他診療科との連携の下、患者さんやご家族に安心していただける正確な診断と患者さんの状態に応じた適切な標準治療を心がけています。

小児白血病、悪性リンパ腫、骨髄異形成症候群、組織球症などの造血器腫瘍は日本小児がん研究グループ（JCCG）、日本小児白血病リンパ腫研究グループ（JPLSG）、小児白血病研究会（JACLS）、小児血液・がん学会各委員会プロトコールに則った多施設共同治療研究としての抗がん剤治療を、固形腫瘍は小児がんプロトコールに則った治療を行なっています。小児病棟には準無菌室を6室完備しています。外来化学療法は、外来通院治療センターの小児専用の個室にて施行しています。また、京都大学、大阪市立総合医療センターをはじめとする小児がん拠点病院と協力しながら、ガイドラインに沿った造血細胞移植も施行しています。

（イ）非腫瘍疾患

赤血球疾患（鉄欠乏性貧血、遺伝性／非遺伝性溶血性貧血、再生不良性貧血など）、白血球疾患（自己免疫性／先天性好中球減少症、好中球／好酸球／好塩基球増加症、好中球機能異常症、貯蔵疾患など）、止血疾患（血小板減少症、血小板機能異常症、凝固異常症など）の診断と治療を行っています。院内の臨床検査科部や院外の検査機関に協力を仰ぎ、最小限の検体による適切な診断を心がけています。

④腎臓疾患（担当：野村医長、住本園長）

腎炎、ネフローゼ症候群をはじめとする、血尿・蛋白尿を呈する疾患（家族性血尿、無症候性血尿、起立性蛋白症、紫斑病性腎炎、尿路奇形など）の診断・治療を行なっています。不必要な運動や食事制限を解除するよう心がけています。IgA腎症をはじめとする慢性腎炎の場合は、入院のうえ腎生検で組織を確認し、各種薬剤治療を行っています。ネフローゼ症候群の初発例は、P S L国際法（2ヶ月間）を行っています。難治例では、CyAを始めとする免疫抑制剤、ステロイドパルス療法、生物製剤（リツキシマブ）の投与を行い、内服ステロイド量の減量・中止に努めています。

⑤循環器疾患（担当：葭井部長、竹川医長、村上非常勤医師）

（ア）川崎病

年間約 70 例を診療しています。診断基準に基づき診断し、免疫グロブリン大量療法を行い、反応不良の患者さんにはレミケードをはじめ適切な追加治療を行なっています。

（イ）先天性心疾患

超音波検査、カラードップラーによる血流イメージ、心機能計測、心電図、ホルター心電図などの診断を行っています。

（ウ）不整脈

WPW や QT 延長症候群などの不整脈は、心電図、ホルター心電図、APT 試験などで積極的な診断を行なっています。専門的な検査や手術が必要な患者さんには、大阪市立総合医療センターや国立循環器病研究センターなどを紹介しています。

⑥神経・精神疾患・遺伝疾患（担当：坂本副部長〔専門医〕、新居医長、住本園長）

てんかんには脳波、CT、MRI、さらに必要に応じて SPECT による脳血流検査も施行し、抗てんかん薬による治療を施行します。

遺伝・染色体性神経疾患は、ご家族の希望があれば専門施設と協力し、精査・治療・遺伝カウンセリングに努めています。（担当：坂本副部長（専門医））。

脳性麻痺など肢体不自由児の機能訓練は、同じ敷地内にある大手前整肢学園で行っています（担当：新居医長、住本園長）。

⑦内分泌・代謝疾患（担当：野村医長〔専門医〕）

低身長、甲状腺疾患、思春期早発症などの内分泌疾患や若年性糖尿病などの代謝疾患などの診断、治療を行なっています。また、先天性代謝疾患は、福井大学と協力して、診断・治療を行なっています。

⑧新生児・未熟児：新生児・未熟児科を参照

⑨その他

（ア）消化器疾患

超音波検査、CT 検査、MRI 検査を施行し、必要があれば小児外科医や消化器内科医と協力して、消化管造影検査（上部、下部）や内視鏡検査（上部、下部）、pH モニタリング検査を施行しています。

（イ）呼吸器疾患

ヘリカル CT 検査を施行しています。

必要があれば、耳鼻咽喉科医や呼吸器科医と協力して気管支鏡検査を施行しています。